

[様式1]

令和6年度 北区立小学校学力向上を図るための全体計画

#REF!

令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	正答率と標準スコアによる分析を見ると、第3、4学年年以外は全国値を上回っている。特に5年生は標準スコアを4ポイント弱上回っていて、良好であることが伺える。第5学年以外は、どの学年も書くことの領域が他項目に比べて低くなっている。自分の考えを書くことの習慣化や、書くことに抵抗感を感じなくなるような指導の工夫が有効ではないかと考える。
社会	正答率、標準スコアの分析によると、すべて目標値は上回っている。しかし、6年生は記述式の問題や世界の中の国土になると目標値を下回る結果となった。資料から読み取ったことを正しく言語化する力、既習事項とつなげて考察していく力の育成が必要である。また、基本的な知識の定着を図る必要がある。
算数	正答率、標準スコアの分析によると45.9～53.2ポイントとなっている。観点別正答率もほとんどの学年の観点が目標値より同程度もしくは上回っている。しかし、3年生「知識・技能」の観点が目標値から6.3ポイント下回っていた。数と計算、図形各領域の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を今後も続け、自ら考える力をつけていく必要があると考える。
理科	正答率・標準スコアの分析によると、第5学年は全国値を上回っているが、第4、6学年は全国値を下回っている。観点別の分析では「知識・技能」の項目について、第4学年は約8ポイント、第6学年は約5ポイント目標値を下回っている。実験や観察などの活動に力を入れるだけでなく、単元の終末にまとめの時間を設け、基礎的な知識・技能を身につけられるよう指導していく工夫が必要である。
外国語	正答率、標準スコアの分析によると、すべて目標値は上回っている。特に、「読むこと」については、10ポイント、「聞くこと」については、6.5ポイント以上全国平均を上回っている。どの項目においても80%を上回っている中、「書くこと」「活用」については、80%に届いていない。今後、学習したところを活用する場面の工夫や、「書くこと」の指導を充実させていく必要がある。

本校の教育目標

- ・自ら学び合う子
- ・自ら進んでやる子
- ・互いに助け合う子
- ・じょうぶな子

本校が児童に育成したい力

○学習や生活の基になる力(基礎的・基本的な知識・技能) ○読む力…適切な声量、抑揚を工夫して音読したり、文章内容を正しく読み取ったりする力 ○書く力…漢字を正しく読んだり、正しい筆順で書いたり、語句や語彙を増やしたりしながら文章を書く力 ○話す力…相手によく分かるように筋道を立てて話す力 ○聞く力…話し手をよく見て内容を正しく聞き取ったり、要点をメモしながら聞き取ったりする力 ○計算する力…整数、小数、分数の四則計算の意味を理解し、計算を正確に処理する力 ○課題を解決する力(思考・判断・表現) ○課題を発見する力・見通しをもち筋道を立てて考える力・主体的に考える力・適応、応用する力・かかわり合って学ぶ力・判断・意思・決定する力・理解したことを表現する力 ○自ら進んで学習に取り組む力(意欲)

学力向上にかかわる経営方針

- ①基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のため指導法を工夫する。
- ②適正な評価を通して課題発見に努め、個に応じた指導を家庭との協力を含めて実施する。
- ③自己教育力を向上させるため児童の興味・関心を生かした主体的な問題解決活動を展開する。

校内における学力向上推進体制

授業改善推進プランの立案、実施過程での課題や改善についての検討、具体的な評価項目の設定、評価を基にした実施報告書作成、次年度の授業改善推進プランの立案、実行、振り返り、改善のサイクルを実施。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力差が出やすい算数科において、2年生以上で習熟度別少人数学習指導を導入している。</li> <li>・毎週1回の理科支援員によるTTの実施・学力パワーアップ講師の活用・特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーを中心とした校内委員会での共通理解により、個に応じた指導の充実を図っている。</li> <li>・基礎学力が定着していない3年生から6年生の児童を対象に年間32回の学力フォローアップ教室を実施し、基礎学力の確かな定着を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～4年は国語科、5・6年は外国語科で週3回の短時間学習を行い、基本的事項の定着を図る。</li> <li>・夏季休業中の「夏休み学習教室」を実施し、個別で補充的指導を行う。</li> <li>・東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題「数学的な見方・考え方を働かせて問題解決に取り組む児童の育成」</li> <li>・児童の実態を把握し、それに基づいた指導計画を立てる。</li> <li>・育てたい児童像を設定し仮説を立て、それに基づいて具体的な手立てを講じ、検証していく。</li> <li>・算数における授業の進め方、板書、教室環境などのスタンダード化を図る。</li> <li>・講演会(1回)、研究授業(3回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の年間計画、評価計画を作成し、それに基づく授業を実施する。オリンピック・パラリンピック教育推進の視点を踏まえた指導計画を立てる。</li> <li>・北区基礎基本の定着度調査、都の児童の学力向上を図るための調査や都算研の実態調査を実施し実態把握をする。また、調査結果より、指導改善計画を立て、授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開日や研究授業の公開を通して、家庭や地域社会に教育活動を理解していただく。</li> <li>・2年生の植栽活動、3年生のまち探検、5年生の福祉施設見学等の学習活動では地域の人材を活用し、地域社会との連携を図る。</li> <li>・保護者へのアンケートや学校関係者評価を基に、教育活動の見直しや改善を図る。</li> </ul>